

大本山總持寺開山瑩山禪師の七〇〇回大遠忌をお迎えして

加茂法話会 令和六年三月二十六日

一、永平寺御開山道元禪師 どうげん 一一〇〇〜一二五三

總持寺御開山瑩山禪師 けいざん 一二六四〜一三二五

二、瑩山禪師の遺偈

自耕自作閑田地

みずか たがや つく かんでんち
自ら耕し自ら作る閑田地

幾度売来買去新

いくたび うり きた か さい
幾度か売り来り買い去って新たなり

無限靈苗種熟脱

かぎ な れいみょう たね じゆくだつ
限り無き靈苗、種は熟脱す

法堂上見挿鋤人

はつどうじょう くわ さしはき
法堂上に鋤を挿む人を見る

その意味は

「農家の方が田畑を耕すように、私も懸命に教えを広めたり伝えたりしてきた。いつしか種が実るように弟子たちが育って、お寺の本堂で一生懸命に教えの鋤を振るっているのが見える」

三、今年こうしんは、甲辰こうしん（きのえたつ）年

『甲』：十千の第一番目に出てくるもので、甲冑かうちゅうの「甲」の文字から鎧や兜を連想させ、種子が厚い皮に守られて芽を出さない状態や、物事に対して耐え忍ぶ状態を表す文字。また、生命や物事の始まり、成長も意味する。

『辰』：「振るう」という文字に由来しており、自然万物が振動し、草木が成長して活力が旺盛になる状態を表す。ただ、あめかんむりを付ける地震の震ともなる。しかし、曲をつけると農業の農になり、田畑を耕作することを表す。